

広 企 商 発
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

北海道広尾町長 村 瀬



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号により御依頼のありました標記の件につきまして、別添のとおり提出いたしますので、御確認方
よろしくお願いいたします。

〒089-2692

北海道広尾郡広尾町西4条7丁目1

広尾町企画商工課企画係

TEL 01558-2-0184 FAX01558-2-4933

E-mail kikaku@town.hiroo.hokkaido.jp

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道広尾町

- 国民から出された、道路行政に対する批判や不満、数々の問題点をしっかりと受け止めたうえで、無駄な支出を排除すると共に道路関係公益法人等の徹底的な改革を行うなど国民の目線に立った総点検をしていただきたい。
- 道路特定財源は、平成 21 年度から一般財源化されることが政府の方針として示されていますが、北海道十勝地方は、高速道路や高規格幹線道路などの主要な幹線ネットワークの形成を始め、基幹産業である農畜産業・水産加工業の産業振興、観光振興、防災対策、救急医療などにおいても、まだまだ道路整備が必要な状況であり、基本方針に基づき、必要な道路は着実に整備していただきたい。
- 一般財源化を検討するにあたって、今後の道路整備や維持管理等に支障が生じないように、国及び地方が必要な財源を確保し、地方財政に影響を及ぼさないように措置していただきたい。
- 一般財源化が検討されている各税目は、そもそも道路利用者から徴収している税であり、まずは道路に関連する支出に充てることが前提であり、必要な道路整備を優先したうえで、地方の実情に応じ環境や福祉の分野に充当することも可能となるような自由度が確保されるべきである。

○現状

- 重要港湾「十勝港」は、本道と本州を最短距離で結ぶという地理的条件に恵まれています。平成 11 年には、関税法に基づく貿易開港の指定を受け、更に、マイナス13メートル岸壁の暫定供用が開始されたことから、外国船や 4 万トン級の大型船の入港の増加、海上輸送のコスト縮減が期待され、十勝の海の物流拠点として、地域の活性化が期待されているところです。
- 十勝では、帯広市近郊の人口が管内人口の約 7 割を占め、医療機関についても管内の約 7 割、医療従事者については約 8 割以上がこの地域に集中しています。
- 近年の地球温暖化の影響による台風などによる災害の増加や日本各地における地震の多発により、地域住民の間に災害への危機感が高まっています。
- 北海道は交通事故の発生率も全国的に見て依然として高い状況にあり、安全施設の整備や道路改良を進めるとともに、高齢者や障害者に配慮した安全対策と路面状況など道路交通情報のシステム整備が必要となります。

○課題

- 平成 23 年度から、重要港湾「十勝港」に本格稼働する道内最大級の飼料コンビナートの進出が決定し、年間 40 万トンの配合飼料を生産し、十勝の畜産・酪農業はじめ道内に供給します。これに伴い、一般国道 336 号及び 236 号は飛躍的に輸送量が増大することが予想されます。現在、高規格幹線道路「帯広・広尾自動車道」は帯広JCT～中札内まで整備されていますが、中札内～大樹間の早期事業着工と大樹～広尾間の事業区間への早期組み入れにより、十勝港とのアクセス強化が一層望まれます。
- 十勝の高次医療施設は帯広市に依存しており、救急搬送の帯広市への搬送割合は、本町で 4 割近くになっています。また、産婦人科や特定診療科目の受診についても路線バスで片道 2 時間、往復 4 時間以上をかけて通院しており、経済的負担と精神的な負担軽減のため「帯広・広尾自動車道」の早期整備が望まれます。
- 一般国道 336 号(黄金道路)の音調津～庶野間は、地域住民にとって生活道路であり沿岸漁業の生産道路であります。大雨による土砂崩れや高波による越波による通行止めや道路の冠水・砂利の飛散などが発生しており、通行の安全安心のための維持管理費の確保と災害に備えた道路防災対策を重点的に進めることが必要です。
- 一般国道 236 号及び 336 号沿線には小中学校に通学している児童生徒の居住地域がありますが、通学路の歩道の未整備区間があるほか、急カーブや急勾配、幅員の狭い区間など危険箇所の重点的な改修を行う必要があります。また、草刈などの維持管理が充分でなく、見通しが悪く危険な箇所があるため、維持管理に必要な予算を確保する必要があります。

○ 教育・文化を高める地域づくり

- ・ 「人づくりはまちづくり」を基本に、学校と地域と家庭の連携の下、生涯学習活動の推進と国際化・情報化に対応できる子供たちの育成

○ 健康でしあわせな地域づくり

- ・ 町民が安心して健康に暮らせるまちづくりをめざす。
- ・ 町立病院の維持と経営の健全化
- ・ 保健・福祉事業の充実
- ・ 子育て支援の充実

○ 快適な地域づくり

- ・ ゴミの減量化や生ゴミの堆肥化、ゴミの資源化、リサイクル活動に取組み、住みよい環境の保持
- ・ 自主防災組織の育成や防犯・防災・交通の関係機関との連携強化
- ・ 自然環境の保全、町道や公営住宅及び上下水道の整備と維持管理

○ 活力ある地域づくり

- ・ 魅力とゆとりある農業をめざし、担い手の確保や新規就農支援、農業経営の安定化
- ・ 沿岸漁業と増養殖事業の振興をはかり、広尾産シシャモのブランド化を支援
- ・ 国土保全など、多面的な機能を持つ林業の振興
- ・ 商工会との連携による地域に根ざした商工業の振興
- ・ サンタメール事業など「サンタランド」を生かした観光の振興
- ・ 十勝港利活用の推進、飼料コンビナート進出による地元経済への波及促進、関連企業の誘致促進

○ みんなで歩む地域づくり

- ・ 厳しい財政環境の現状にあって、簡素で効率的な行政に務め、安定した財政基盤を築き、自主自立のまちづくり

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道広尾町

○重点事項 ○地域活力の向上 ○大規模な地震、火災に強い国土づくり等 ○総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	○代表事例 ・高規格幹線道路「帯広・広尾自動車道」の整備・利用促進 ・大規模な災害発生等に伴う緊急輸送道路の耐震化等の整備 ・通学路等における安全・安心な道路空間の確保	○期待する効果や評価等 ・重要港湾「十勝港」と帯広空港、北海道横断自動車道を結ぶ交通拠点となり、農畜産物資源の輸送コストの削減など十勝全体の地域経済の活性化に大きく寄与できる。 ・十勝港に進出する道内最大級の飼料コンビナートは、年間40万トンの配合飼料を生産し、十勝の畜産・酪農業はじめ道内に供給します。高規格幹線道路「帯広・広尾自動車道」の中札内～大樹間の早期事業着工と大樹～広尾間の事業区間への早期組み入れにより、十勝港との一層のアクセス強化が図られます。 ・十勝の高次医療施設は帯広市に依存しており、救急搬送の時間短縮や冬期間の移動確保が図られます。 ・大規模地震発生時における橋りょうの倒壊・落橋を防止し緊急輸送道路の確保が図られます。 ・交通事故死者のうち歩行者や自転車の利用者の割合が非常に高い割合を占めていることから、通学路等における歩道整備など交通安全対策の推進が図られる。	○その他
---	--	--	-------------